

日本学術会議
臨床医学委員会 子どもの成育環境分科会（第25期第9回）
議事録

日時：令和4年4月4日(月) 18:00~19:00

場所：遠隔会議(zoom)

出席者：山中（委員長）、西田（副委員長）、水口（幹事）、相澤、浅野、伊香賀、大倉、神吉、斎尾、定行、都築、中坪、宮地、三輪、湯川、吉野（敬称略）

冒頭に山中分科会長から、本日の議事（幹事会へのフォーラム提案と幹事会からのコメント）について説明があった。以下のような意見・コメントが出された。

- コメントのうち、学術的ではないという点に関しては、社会にとって重要なシステムを構築しようとしている点が新しい学術ではないかと思う。まずは、現状把握は大事であり、第5次、6次の科学技術計画にはマッチしていると思う。
- 通常の学術的学会では、多くの行政や実務の方を呼ぶのは難しいが、今回、日本学術会議の依頼ということで、内諾が取れた点は、大きな進捗である。
- 目的は明快で、良い企画だと思う。きちんと説明してくことが大事ではないか。
- 時間配分は、検討していくと良いと思う。山中先生が5分は短いと思われる。
- 時期は、7月下旬の午後が良いと思う。小児看護など、大きな学会は避けると良い。7月23日ぐらいはどうかと考えている。
- 講演の長さ、ジェンダーバランスなども考慮したい。
- 子ども環境学会があり、定行先生、仙田先生なども連携先として考えられる。
- フォーラムが不採択でも、シンポジウムで開催したい。
- 社会全体で必要となる情報収集のインフラができれば、議論のセクションで、どんな期待があるかをNPOなどに発言してもらおうとよいと思う。
- 子ども環境学会では、現場と研究者の両方が活動している。現場で使えるか？、研究で使えるか？を議論できると良いと思う。議論の場が大事だと思いました。
- 共催を子ども環境学会などをお願いすると良い。三輪先生、定行先生は、学会員。学会でも宣伝したい。自治体向けにも宣伝すると良い。セームコミュニティ関連への宣伝も考えると良い。
- 講演予定者の内諾など進めていくと良い。

最後に山中委員長から、次回の議題として、具体的なフォーラムの審議結果、コメントの共有、不採択の場合は、シンポジウムのに向けた準備を行う旨の説明があり、閉会となった。